

長崎の林業

小曾根星堂書



5

森林のめぐみ展示会

目次

- 林政だより 令和6年度林政課・森林整備室の予算概要 2~3
- 特集記事 きのみマイスターが育む100%長崎産「靈芝（れいし）」
美味しさと共に可能性を伝えたい
株式会社きんかい茸 代表取締役 山田諭さん 4~5
- 林業普及だより 労働安全災害防止講習会の開催 6
- 地方だより・県央 「森林計画図」が公開されました。 7
- 地方だより・島原 樫（ハゼ）の木 植樹祭が行われました 8
- 林業団体情報 令和6年度 長崎県民の森 年間イベントのお知らせ 9
- センターだより イヌマキを食害する「ケブカトラカミキリ」にご注意ください！ 10
- イベント情報・壱岐 芦辺港ターミナル 木質化リニュアル 11
- 長崎の山と森 樹木医の巨樹さるく
(六御前神社のイチョウ・島大國魂御子神社のムクロジ) 12

「長崎の林業」は、ながさき森林環境税により発行しています。

ながさき森林環境税



2024 No.818

木づかい推進で地球温暖化を防止しよう！

ながさき森林環境税の取組についてはこちら→



森林ボランティアに興味のある方はこちら→



FREE

ご自由にお持ち下さい。
「長崎の林業」はこちらからもご覧いただけます→



令和6年度林政課・森林整備室の予算概要

長崎県林業構造の展望（令和12年）



ながさき農林業・農山村活性化計画

令和6年度は、若者から「選ばれる」、魅力ある農林業・暮らしやすい農山村の実現を目指すために策定された「第3期ながさき農林業・農山村活性化計画」実行の4年目です。

この計画では、令和12年の本県の林業の姿として、循環利用する森林を60,000ha確保し、計画的な路網整備、高性能林業機械の活用促進等により木材生産量の増大を図り、林業事業体の経営改善を進めることで、林業専業作業員数を420人まで増やし、平均年収520万円の確保を目指しています。

また、近年多発する自然災害に対して、県民の安全・安心で快適な地域づくりを推進するため、治山事業を実施します。

今年度は今までの施策の成果を検証し、計画の中間評価を行う予定としています。

当初予算の概要

令和6年度の林政課・森林整備室関係の一般会計当初予算は、9,022,739千円です。

1.ながさき森林環境保全事業 (予算額:248,380千円)

森林の持つ公益的機能の維持発揮と、森林を県民の皆さんで守り育てていく意識を高め

るため、ながさき森林環境税を活用し、「環境重視」と「県民参加」の視点に立った活動を支援します。

〇人集う里山づくり事業

身近で、親しめる里山林となるよう森林の整備を進め、安全な生活環境を提供します。



里山林の整備前（松浦市御厨町）



里山林の整備後

○ながさ木・なごみの街づくり事業

民間のPR効果が高いスペースや教育・保育スペースにおいて、内装に県産木材を使用したり、木製品を県産木材で整備する取り組みを支援します。



民間施設の内装の木質化

○ながさき県民参加の森林づくり事業

県民の皆さんがながさき森林環境税の趣旨に即して、自ら企画して実施する植樹を中心とした活動や森林の環境整備を中心とした活動などを支援します。



木工体験や森林学習など

2. 森林環境譲与税事業

(予算額：68,568千円)

森林の適切な管理と林業の成長産業化を両立するため、「新たな森林管理システム」を推進し、森林整備の担い手となる林業事業者の育成・強化を図ります。組織強化や林業専門作業員の技術向上に向け、体系化した研修カリキュラムを実施します。



チェーンソー技術の競技（伐倒部門）

3. 森林環境保全整備事業（造林公共）

(予算額：978,617千円)

森林の公益的機能の維持増進を図るため、造林や間伐等の森林整備を支援し、健全な森林を育てていきます。



伐採後の再造林

4. 森林環境保全整備事業（林道公共）

(予算額：102,200千円)

水土保持及び木材生産機能の高い森林について、その機能を効率的に発揮させるための基盤となる林道等の新設及び改築を行います。

5. 治山事業（公共）

(予算額：3,521,075千円)

梅雨前線や台風による集中豪雨等を起因とした山地災害から県民の生命と生活を守るため、施設整備及び森林整備を実施します。

(林政課 計画調整班)

【特集記事】

きのこマイスターが育てる100%長崎産「れいし霊芝」

美味しさと共に新しい可能性を伝えたい

株式会社きんかい茸 代表取締役 やまだ さとし 山田 諭さん

長崎市琴海戸根町 大石岳中腹 きのこづくりを支える水源の森にて

美しいリアス式海岸と豊かな緑の山々に囲まれた長崎市琴海地区。独特の地形を活かした農産物栽培が盛んで、真珠の養殖やナマコ、牡蠣等の産地としても知られており、その旬の時期には県内外から沢山の人が訪れる人気スポットとなっています。今回はここ琴海地区で、親子二代に渡り、循環型きのこ生産に取り組む「株式会社きんかい茸」を営む山田諭さんに話を伺いました。

きのこ職人として

父である章人あきとさんが同地区に「琴海きのこセンター」を設立したのは昭和55年のこと。当時はまだ高価で珍しかったエノキ茸を長崎にも広めたいと、本場長野県から指導を受け栽培を開始、平成15年には県内で初めてエリンギの栽培を始めました。一方、東京の大学へ進学した山田さん。卒業後は念願の体育教諭として教壇に立っていましたが、家族の闘病を期に地元へ戻ることを決意。父の指導の下、きのこのプロとしての道を歩み始めました。探求心と好奇心、情熱

に溢れるお人柄からか、あっという間に菌の世界の虜となったそう。時には栽培室に寝泊まりし、寝る暇も惜しんでミクロの世界で繰り広げられる生存競争と対峙してきました。父から受け継いだノウハウに加え、そうして得た知識と経験が確実に実を結び、今では年間300tもの生産量を誇る県内有数のきのこ屋さんへと成長を遂げました。



(左) 生存競争で勝った2、3本のみ成長するエリンギの芽
(右) 栽培室 成長過程に合った温度、照度、CO2濃度を管理

きのこ屋として迎えた転機

数々の失敗や試行錯誤を繰り返し、ようやく軌道に乗り出した山田さんに癌が見つかったのは45歳の頃でした。辛い副作用に耐え兼ね治療を断念した矢先、医師が示した提案が光をもたらします。それは副作用

のない薬、「きのこで作られた抗癌剤」でした。その薬が功を奏し、無事完治に至った実体験から、きのこ屋としての使命を感じた山田さん。病と闘う方、それを支えるご家族の光となりたいという強い信念のもと、霊芝の栽培という新たな挑戦が始まりました。

「霊芝」栽培への挑戦

日本ではサルノコシカケと呼ばれ、中国では2千年前から不老長寿の「幻のきのこ」として重宝されてきた霊芝。同じきのこ類でも、栽培方法や加工技術の他、流通経路も全く異なるため、全てがゼロからのスタートでした。ラボ（研究室）のような無菌室で、厳選した霊芝から優秀な組織のみを取り出しシャーレの中で培養、こうして出来たクローン種菌を、煮沸したクヌギの原木にかけ、23℃の暗室で2か月程かけ浸透させます。気温や雨のタイミングを見て、原木を乾燥させないように、一気に丁寧に土中に埋め、遮光ネットをかけて出来るだけ自然に近い環境を作り、育てています。スタッフ総出で行う作業は、経験と役割分担により、年々スムーズかつ迅速に運ぶようになりました。



(左) 30cm程に玉切りされたクヌギの原木
(右) 霊芝の菌が浸透した原木を土に埋め発芽を待つ

きのこ栽培を支える森の恵み

約20年の歳月をかけ、独学で学び得てきた霊芝栽培の中で、大切に守り続けたものがあります。上質な原木と豊かな土作り、そして綺麗な湧水の安定供給です。今年も県内産のクヌギを使う準備が進んでいるそう。土も重要で、胞子を多く飛ばす霊芝を育て

た土は連作が出来ず、翌年はもう使えません。その為、エリンギの廃菌床をたっぷり加え、ゆっくりと休ませ、1年をかけて栄養満点の土作りを行います。きのこ栽培に欠かせない水は毎日2～3tが必要です。ミカン農家だった祖父の代から引き継がれてきた大石岳の天然湧水を工場内に引き、その冷たく美味しい水の恩恵を受け、この地でしか出来ないきのこ栽培を実現しています。



(左) 発芽した霊芝 植菌より5か月程の様子
(右) 発芽から1か月程で収穫 傘の部分のみ切り取る

苦い霊芝を気軽に楽しめるように

乾燥霊芝を粉末状にし、商品化に繋がりたいと、加工に着手するも失敗の連続でした。機械を変えても粉にはならず、なぜかふわふわの綿状になるのです。あらゆる手を尽くし、いよいよお手上げとなったその時、九州で唯一特殊機械を有した加工業者と出会いました。大型機械の中で、繊維質の多い霊芝を無数の鉄球が何日も何日も叩くという方法で、ようやく理想の粉末化に成功。「苦くて飲み辛いという悩みを軽減し、嗜好品として自由に飲んでほしい。」そんな願いに共感した東彼杵と雲仙の老舗お茶屋さんや、長崎で指折りの珈琲職人の協力を得て、共に試作を重ね、美味しい商品として生まれ変わった100%長崎産の霊芝。きのこの持つ力の新たな可能性を追求し、喜ぶお客さんの笑顔のため、そして必要としている人たちの元へと届けるため、山田さんの挑戦は今日も続きます。



長崎霊芝の商品

(NPO法人地域循環研究所)

労働安全災害防止講習会の開催



はじめに

長崎県では、第3期ながさき農林業・農山村活性化計画(R3～R7)を策定しており、「人材が集まり、定着する」魅力ある林業事業体の実現を林業事業体の共通のテーマ(将来像)としています。この将来像を達成するための林業の最重要課題として、安全対策についての取組強化を掲げています。現場での労働災害を防ぎ、安全に現場での作業に取り組むために、長崎北部森林組合において現業職員および請負作業班を対象に令和6年2月20日(火)に労働安全災害防止講習会を開催しました。

労働災害を防ぐために

まず、江迎労働基準監督署より労働災害の現状や災害防止対策について、過去に発生した労働災害の事例を用いて講習があり、それぞれの被災の原因や対策について受講生が考えました。周りの人と話し合い、発表してもらい安全意識を共有し高めることができました。



つぎに県北振興局普及班より労働安全災害に関連して林業業界の現状や長崎県での取組について、各種情報提供を行いました。

特に現業職員にとって重要な制度である労災保険制度について、掛け金の全額を事業主が負担していることもあり、従事者の直接的負担はありませんが、この保険率について、R6.4月に現行の6.0%から5.2%へ改正が見込まれています。10数年ぶりの改正は、喜ばしいニュースではありますが、依然として他産業と比べ高い保険率であるのは変わっていません。

この保険率が他産業並となるためには、業界全体での労働災害ゼロへの取組みが不可欠です。保険率が減少することで事業主負担も減少し、自らの労働環境の改善へ還元される認識をもつことで、従事者一人一人が労働災害防止に対する高い意識を持って、日々の現場作業に臨んでもらうことを期待しています。

今後について

冒頭に記載している活性化計画の基本理念として、「若者から「選ばれる」魅力ある農林業・暮らしやすい農山村の実現」を目指すためには労働環境の改善が欠かせません。今後も労働災害の防止と労働環境改善への取組みを支援してまいります。

(県北振興局 林業課)

「森林計画図」が公開されました。

そもそも森林ってなに？

森林とは一般的に「広い範囲にわたって多数の木が生い茂っているところ」をいいます。

「森林法」(昭和26年制定)では次のように示されています。(森林法 第2条)

- 一 木竹が集団して生育している土地及びその土地の上にある立木竹
- 二 前号の土地の外、木竹の集団的な生育に供される土地

森林法では、森林を国(林野庁)が管理する「国有林」とそれ以外の「民有林」に大きく分類されています。

「森林計画図」とは

「民有林」は森林法第5条によって知事が計画をたてる「地域森林計画」にもとづいており、この「民有林」の区域を示した図面です。

※「民有林」を「地域森林計画対象民有林」や「5条森林」と言うこともあります。

今までとこれから

今まで「民有林」の区域内の中で木の伐採や土地の開発等を行う場合には、事前の手续が必要であることから、その土地の規制など確認するために「森林計画図」の取得が必要でした。

取得するためには、県庁や県振興局に行き、交付申請書に必要な事項を記入して、必要な用紙の大きさや枚数に応じ、手数料として県収入証紙を貼付して申請いただき、審査のうえ、紙やCDでお渡ししていました。

これからは、インターネットのサイトにアクセスすることで、無料で「森林計画図」のデータをダウンロードして入手できることになりました。

データ入手の方法

ここでは2つの方法をお知らせします。

(1) 検索サイトから

「長崎県オープンデータカタログサイト」で検索

→「データセット」(「森林計画図」で検索)

→「森林計画図」をダウンロード

(2) QRコード

→「森林計画図」をダウンロード



【凡例】

◎林班(青線)・・・森林を字界や尾根、谷等の天然の地形で分けた区域

◎小班(赤線)・・・林班内を所有者、林相、樹種等により細かく分けた区域

※ 小班で区切られたところが「民有林」です

○森林計画図(PDFファイル)_1

長崎市、諫早市、大村市、西海市、長与町、時津町、東彼杵町、川棚町、波佐見町、佐世保市、平戸市

○森林計画図(PDFファイル)_2

松浦市、小値賀町、佐々町、島原市、雲仙市、南島原市、五島市、新上五島町、壱岐市、対馬市

○森林計画図(shapeファイル)_3

「森林計画図」の注意点

「森林計画図」は、聞き取り調査等により所有者、樹種や林齢等を目安に、区切って作成されたものであるため、所有権等土地に関する権利、所有界、面積及び木竹の評価等を説明するものではありません。錯誤等の可能性があることを、ご承知おきください。

(県央振興局 森林土木課)

地方だより

櫨（ハゼ）の木 植樹祭が行われました



説明を行う本多氏

島原原産の櫨の品種である「昭和福櫨」の再生と、櫨に彩られた風景を復元することを目的に発足した「櫨道楽会」と昭和福櫨の実から木蠟(もくろう)を製造する「本多木蠟工業所」の共催で、令和6年3月10日(日)に島原市千本木地区で植樹祭が行われました。緑の募金による「県民参加の森林づくり事業」を活用し、昭和福櫨200本を植樹しました。



植樹を行う参加者

参加者は約50名、地元住民の方や島原農業高校食品加工部のメンバー、本多木蠟工業所に密着取材をされている映画監督・映像ディレクターの岡部聡氏など市内外から参加されていました。

島原農業高校食品加工部では、レモンの果皮を活用した和ろうそく「レモドル」を本多木蠟工業所と共同開発、今後は櫨を使った石

鹸作りを行うなど、地域の資源活用や地域振興に取り組んでいます。



植樹を行う島原農業高校食品加工部の生徒

岡部氏の取材の様子は、今後YouTubeで公開される予定です。植樹祭の様子だけでなく、実際に木蠟を製造する工程なども取材するそうなので、是非ご覧ください。



左：岡部氏 右：本多氏

本多木蠟工業所の本多代表は「今回植えた櫨の木を大切に育てていきたい。秋には紅葉スポットとして観光客の方や地元の方が楽しめる場所になると思う。紅葉の時期には肌がかぶれることはないので安心して楽しんでほしい。実が取れるようになるには10年程度かかるが、櫨道楽会や地域の子供たちに向けたイベントに活用していきたい」と話していました。

(島原振興局林務課)

令和6年度 長崎県民の森 年間イベントのお知らせ

日頃より長崎県民の森をご利用いただき感謝申し上げます。

令和6年3月30日にリニューアルオープンした長崎県民の森では、今年もたくさんの県民の皆様に森で楽しんでいただくよう、多くのイベントを企画しておりますのでご紹介いたします。

2024		イベント内容
6月	30日	野生きのご観察会I
7月	1日～ 9月30日	ながさき県民の森 フォトコンテスト2024
	21日	夏休み自然クラフト教室
	28日	沢遊び
8月	11日	山の日イベント
9月	29日	野生きのご観察会II
		秋のお散歩ネイチャーゲーム
10月	6日	秋の昆虫観察会
	13日～ 27日	どんぐりのひみつ展
	20日	どんぐり染め
11月	17日	クリスマスリース作り
	24日	秋の健康ウォーキング
12月	22日	ミニ門松作り
2025		イベント内容
2月	9日	冬芽観察と焼きマツノ・焼き芋
3月	2日	シイタケの駒打ち体験

どれも、毎年大人気で、特に「沢遊び」や「夏休み自然クラフト教室」は夏休みの思い出作りに、冬の「クリスマスリース作り」や「ミニ門松作り」は季節の行事として家族一緒に和気あいあいと作って、家に飾ってもらえたらと企画しました。

参加費の有無や、先着順、抽選など申し込み方法が異なりますので募集チラシをチェックして申し込んでください。



クリスマスリース作り

また、森林館自然クラフトコーナーが、リニューアルに合わせて質・材料ともとても充実しました。「自然クラフト」や「松ぼっくりツリー」など、ご家族でも団体でもいつでも自由に作ることができますので、気軽にスタッフに声をかけてください。



自然クラフト作品

森林・自然関係書籍の寄贈のお願い

県民の森では森林館1階に「森の図書館」を設置したことに伴い蔵書の充実を考えております。もしよろしければ新しい森林館に來訪いただく際、お手持ちの自然・森林・宇宙などに関する図鑑・写真集など目で見えて楽しい図書を寄贈いただければ幸いです。

(長崎県民の森管理事務所)

イヌマキを食害する 「ケブカトラカミキリ」にご注意ください！

ケブカトラカミキリとは

ケブカトラカミキリは日本特産種で、屋久島、種子島、九州、四国に分布しています。成虫は体長約1cmで全体が長毛でおおわれています。幼虫はナギやイヌマキの樹皮下の形成層をリング状に食害し、一部または全部が枯損することもあります。



ケブカトラカミキリの成虫



食害状況

枯損状況

県内の被害状況

長崎県はケブカトラカミキリの本来の生息域から遠く離れているため、本種による枯損被害が拡大する可能性は少ないと考えられていました。しかし、2017年以降に被害が散見されたため、被害の実態を把握することを目的に、2023年に県本土域の枯損被害の状況を調査しました。調査箇所はイヌマキ・ナギが枯損する等の過去の情報があった地域及びその周辺の県市町の天然記念物や文化財の計25か所で、そのうち8か所で被害が確認されました。それらの場所は公園や防風垣であり、森林では確認されませんでした

(詳しくは九州森林研究第77号を御覧ください)。

生態と防除

ケブカトラカミキリは1年に1回発生します。木の中で越冬した成虫が4月～6月にかけて脱出孔から脱出し、すぐに交尾を行い、樹皮下に産卵します。10日前後でふ化した幼虫は10月まで樹皮下の形成層を食害します。その後、木の中で成虫となり、越冬します。

イヌマキに対して行う管理ポイントは、強すぎる剪定をさけ、樹勢を維持するために施肥するなど木を健全に育てることが大切です。樹勢が弱っている木には被害が出やすいので、注意してください。被害を受けた木は、樹皮に虫が脱出した穴が確認され、葉が変色することが特徴です。もし被害が出たときは次のような対策が有効です。

- ①伐倒駆除は、3月までに被害木を伐採し、その後の処分まで必ず行う。
- ②薬剤防除は、成虫が幹から外に出てくる4月中旬～6月上旬に樹幹に登録農薬を散布する。

さいごに

ケブカトラカミキリによる枯損被害のあった調査地は、互いの距離が5～10数km離れ、特定の被害地から成虫が飛翔して被害が拡大した可能性は低いと考えられます。一方、暴風垣や生垣に被害が発生すると、連続して被害が拡大することが懸念されます。

現在は森林内に被害が確認されていませんが、今後はイヌマキ人工林に被害が発生しないか注視していくことが重要です。

当センターは日本樹木医会長崎県支部と連携して取り組んでいます。被害の判断や薬剤についての問合せは、樹木医の久保田健一氏(古賀植木園芸組合、電話(095)837-8182)にご相談ください。

(農林技術開発センター)

— お知らせ —

芦辺港ターミナル 木質化リニューアル

この春、壱岐市の玄関口、芦辺港ターミナルがリニューアルしました。これまで別々だったフェリー乗り場とジェットfoil乗り場の一元化や観光案内所が併設され、内装に県産材が使用された温かみのある施設に生まれ変わりました。

ターミナル内は、乗船名簿を記入する机やベンチ、案内板など、たくさんのお客さんが利用するところに木が使われています。

船を待つ時間もリラックスできそうです。観光案内所は、窓口の内外がほとんど木質化されました。観光の窓口として、明るく親しみやすい空間となっています。

島外から壱岐に来られる方、芦辺港にお立ち寄りの際は、ぜひ、このヒノキの内装材にも目を向けてみてください！

(壱岐振興局 農林整備課)



伊万里木材市況

【ヒノキ】

令和6年4月現在

長さ	径級 cm	等級	高値 (円/㎡)	現在出荷量	現在引合	需要見通
4m	16 ~ 18	直	19,100	普通	普通	普通
	16 ~ 18	小曲り	18,400	普通	普通	普通
	20 ~ 22	直	18,700	普通	普通	普通
	20 ~ 22	小曲り	17,400	普通	普通	普通
	24 ~ 28	直・小曲り	19,500 ~ 17,500	普通	普通	普通

【スギ】

令和6年2月現在

長さ	径級 cm	等級	高値 (円/㎡)	現在出荷量	現在引合	需要見通
4m	18 ~ 22	直	15,500	普通	多い	多い
	16 ~ 22	小曲り	13,500	普通	多い	多い
	24 ~ 28	直	15,500	普通	多い	多い
	24 ~ 28	小曲り	13,500	普通	多い	多い

※情報・お問い合わせは、伊万里木材市場 電話 0955-20-2183 まで

長崎の山と森 樹木医巨樹さるく

むつのごぜん

しまおおくにたま みこ

六御前神社のイチヨウ・島大國魂御子神社のムクロジ

六御前神社のイチヨウ

対馬のイチヨウと言えば、対馬の親木と謳われた^{きん}のイチヨウ(上対馬町)が有名ですが、この六御前神社のイチヨウはそれに次ぐ対馬の代表的な巨樹です。

このイチヨウは火災で焼けて二代目と伝えられています。幹は通直で、樹冠は大きく広がっています。海に近いこともあって枝が折れた跡が多数あります。本殿を取り囲む境内裏の山林は伐採されて境内は明るくなりました。イチヨウの成長にとって良い状態に誘導されています。地元の人々のイチヨウを大事にする気持ちがよく分かります。

対馬では日本神話について独自の伝承があります。海幸山幸の神話のなかで山幸彦と豊玉姫が出会ったのは豊玉町仁位の和多都美神社です。二神の子神であるウガヤフキアエズが誕生したのが鴨居瀬で、六御前神社にはウガヤフキアエズと6人の乳母が祀られています。神社の名称はこれに由来します。

昭和51年11月に境内に設置された説明板には、「この大木を保護することは、大変かも知れないが、対馬・ひいては長崎県の名木として大切に育て、郷土の誇りとしたい。町ぐるみで数百年の生命を尊び、未来への活力を学びたい。」と結ばれています。



六御前神社のイチヨウ

所在地 対馬市千尋藻^{ちるも} 六御前神社内
樹高 25 m 幹回り 7.1 m

島大國魂御子神社のムクロジ

このムクロジは県下最大級の巨樹です。ムクロジの実には羽根つきの羽根につける重りに使われます。このムクロジがある島大國魂御子神社の境内に入ったすぐにはイチヨウとスギの並木があり、荘厳な雰囲気^{しやまう}が漂っています。本殿に向かう参道石段は社叢に囲まれており、石段脇にこのムクロジはあります。

島大國魂御子神社は、870(貞観12)年に記録が残っており、1,000年以上の歴史を持つ神社で、佐須奈地区の氏神様として大切にされてきた神社です。

このムクロジは地上約6mで二叉の一つが折れてなくなっていますが、さらに約2m伸びたところで二叉に分岐して上方に伸びて素晴らしい自然樹形を形作っています。地元の皆さんだけでなく長崎県にとっても貴重なムクロジの巨樹です。



島大國魂御子神社のムクロジ

所在地 対馬市上県町佐須奈日吉
樹高 23 m 幹回り 3.8 m

(NPO法人地域循環研究所)

長崎の林業 5月号 第818号
編集・発行 長崎県林政課
住所：長崎県長崎市尾上町3番1号
電話：095-895-2988
ファクシミリ：095-895-2596
メールアドレス：
s07090@pref.nagasaki.lg.jp